

国際交流員

ヨークさんの

MORIYA
滞在記



冬

そろそろ春になりつつあるのでしょうか？ 今年の日本の冬は例年より厳しかったそうですね。私は2年連続日本で過ごしてきて、いろいろ気付かされたことがあったので、冬について書きたいと思います。

私は「ベルリンと守谷はどちらが寒いですか？」とよく聞かれます。いつも「気温が零下になって、基本的に雪が多いベルリンの方が寒いですが、ドイツではどんな建物もちゃんとした暖房が付いているので、日本の方が寒く感じます。」と答えます。例えば、日本では体育館に暖房が付いていないことに本当にびっくりしました。市役所もとても

寒いです。

また、関東では雪があまり降らないといわれていますが、今年のようにたくさん降ってしまうと、どこでも個人的に雪かきや融雪剤をまくことをしなければならぬことに、さらに驚きました。守谷ではドイツよりも雪が降りませんが、雪が溶けるまでの交通網などの混乱はずつと多いです。

ドイツでも雪の降り始めは多少の混乱がありますが、すぐに雪かきの業者が主要道路を（後で小さな道も）通れるようにしますし、国民も法律的に雪かきの義務があります。自宅前の歩道はいつでも歩行者が滑らずに通れるようにしなければならぬ義務があり、夜10時〜朝6時の時間以外で雪かきをしないといけません。また、交通安全のため、雪が降る時はスノータイヤなどを付けていない車の運転が法律で禁止されています。ところで、私はよくドイツの気候について聞かれるのですが、日本の皆さんはしばしばドイツとシベリアとを混同しているようです。

その誤解を解かせていただきます。

ドイツの緯度は北海道の北にあります。一年中冬というわけではありません。四季があり、冬は日本より寒いですが、天気の良い春夏ならドイツでも気温が30度になる日があります。日本の今年の冬はいつもより寒く、少しだけドイツっぽかったです（笑）。

今年の守谷の雪経験で、2009年のロンドンの冬を思い出しました。イギリスも島国で極端な気候ではないといわれていますが、2009年に大雪が降り、どうしようもなく、イギリス人が困惑していました。道路、歩道、線路は、雪かきがでぎず全てそのまま、雪が早く溶けるようにと願うしかありませんでした。雪に慣れているヨーロッパの国々のメディアでは、皮肉の記事が多かったです。日本はこの冬の雪が2009年のロンドンほどまでは降らなかったもので、意地悪なヨーロッパメディアの記事の餌食にはなりませんでしたがね。良かったですね。

男女共同参画コラム

（男女共同参画推進ネットワーク）

だれもがいきいきと輝けるまちを目指して 気が付いていますか？ 言語は社会を変えていくって

日ごろから何げなく使っている「主人」という言葉ですが、この主人という言葉の方について「わが家では夫は決して主ではないし、むしろ私の方が主なんだけどねえ」それに夫は私のことを家内つて紹介するんだけど、家の中に居ない私を言うんなら家外つて言うってもらいたくないよ（笑）」と。つまり妻や夫を表わす呼称を名前以外でどう言われたら気持ちが良いかということですね。「主人」ということばで夫を表わすようになったのは近代以降だ。いぶたつてからだそうです。明治期は「主従関係の下立場から見た上の立場の者」と「家とか物の持ち主」の2つの意味があり、大正期になつてから「雇用関係の雇う側の人」の意味が付け加わつたそうです。和英辞書では「客に対してもてなす側の人」、さらに「妻に対する夫」の意味が加えられてきて「辞書で「主人」

が夫をさす語として認知されたのは大正期の後半だそうです。言語は歴史的・文化的なものですから当然のように変化しています。英語圏ではチェアマン（議長）をチェアパーソンと呼び変えたり、ポストマン（郵便局員）をメールセンドー等と政策的に呼び変えています。日本でも雇用機会均等法によつてスチュワード、カメラマンや看護婦などの職業名称での募集は違法となりました。メディアでも原則として「主人」という言葉は使わないようにしています。言語は人間にとつての思考そのものです。そして関係や身体・精神も規定します。お互いに気持ち良い関係を作れるような呼称を使い合つて社会を変えていきたいものですね。

○このコラムに関する意見・感想は、左記までメールをお寄せください。

✉ kyoudou@city-moriya.
ibaraki.jp